



<h2 style="text-align: center;">観音の滝</h2> <p style="text-align: center;">～広沢局の思い届けよ、観音の滝～</p>	分野	自然
	地域	七山
<p>観音の滝は、長さ45メートル、落差27メートル、幅10メートルで、「白絹の滝」「奥梅豆羅の淵」「狭霧の滝」「木がくれの淵」「白竜の滝」「静寂の淵」「清めの淵」などと八つの滝と淵が清流で結ばれ、松浦八景の一つとされている。</p> <p>観音の滝に向かって左手の淵の傍らにひっそりと佇む生目観音。この淵の水で目を洗うと眼病が治るといふ言い伝えが残っている。</p> <p>豊臣秀吉が朝鮮出兵のため肥前名護屋城に赴いた時、彼の身の回りの世話をしていた広沢局が眼病を患い、七山村鳴神山福聚院（現在の滝の観音）で祈祷したところ、全快したことから、以来、眼病に効くとして多くの人々が訪れるようになったということである。</p> <p>今では、8つの滝と淵に沿って遊歩道があり、また下流の渓谷は梅や山桜の名所としても知られ、「七山耶馬溪」と呼ばれ自然を愛する多くの観光客を集めており、平成元年度には、「日本の滝百選」に選ばれた。</p> <p>最近では夏に「国際渓流滝登りin ななやま」が開催され、多くの外国人をはじめ1,000人を超す人でにぎわう。</p>	◎地図・写真・統計資料など	
	 <p style="text-align: center;">観音の滝 （『唐津探訪』より）</p>  <p style="text-align: center;">人間の目のようなくぼみに 生目観音が祀られています （『唐津探訪』より）</p>	◎引用・参考文献（出典）
◎エピソード・伝承・うんちく など	◎もっと詳しく知りたい方は	
<p>広沢局が眼の病が治り、その喜びを詩に詠んだ。 「曇りゆくまなこの底は 鳴神の 光と共に晴るみすがた。」とよみ、宝剣をお礼に奉納した。 その後、局は、名護屋城山里丸の一角に一堂を建て、この観堂の分霊を祀ったと伝えられている。名護屋広沢寺にある広沢局の墓は、遙か七山滝の観音の方、東向きに建てられている。</p>	<p>唐津市近代図書館へ お問い合わせください。</p> <p>■電話：0955-72-3467</p> <p>■ホームページ： <a href="http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html">http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html</a></p>	